

熊薬同窓会々報

第 41 号

平成 15 年 12 月 25 日
発行

変わるものと変らないもの

熊薬同窓会・副会長
飛野 幸子(昭和48年卒)



変化という言葉があらゆるところで使われるようになってきました。変わるということを期待しているようでもあり、一方では漠然とした不安感もあります。しかし、人もそして人がつくる社会も変わり続けることは今までの歴史を見ても明白なことであり、変わることが言い換えれば進化ということかもしれません。ダーウインの進化論には、「強い者が生き残るのではなく、適応した者が生き残る」とあります。

身の回りを見渡してみると、確かに変化は確実に訪れています。薬学部6年制問題や医薬品販売の規制緩和などです。それに加えて、全国で多くの薬学部の新設が予定されているといわれています。熊本大学の薬学教育については、先号の熊薬同窓会会報に小田切薬学部長が書かれていますように、大学院が大きく様変わりしようとしています。医学部と薬学部の大学院を統合して、熊本大学医学薬学研究所が発足し、それに加えて、医学教育部、薬学教育部という組織体系が構築されました。医学部と薬学部の関係は各大学によって異なると思われませんが、確かに医学と薬学を切り離して考えることはできません。どちらも最終的には人を対象とした学問であることに変わりはなく、そ

れに薬剤師という職能としての国家資格は、医学と切り離すことは不可能です。有能な薬剤師を生み出すためには、6年制は避けられないことでしょうし、大学で学んだことを、社会に還元するという倫理観や医療人としての使命感を育むことは重要なことであると思われる。医薬品を取り扱うのに、薬剤師が欠かせないという国民の支援があるかどうかが問われているのが、規制緩和の問題ではないでしょうか。その一方で薬学部の新設の動きが活発だということをどのように捉えるべきか戸惑う事もあります。さらに平成16年度には、国立大学の独立行政法人化が控えており、大学とは何であるのかの根本的な命題も突きつけられることとなります。このような状況の中で、同窓会としても変化が現れてきました。今まで同窓会会長が薬学部長であったのが、卒業生の正会員の中から選ばれることになり、田代昭会長が選ばれたことは皆様方もご承知のことと思います。同窓会のあり方もまた、変化することになると思います。

では、身近で変らないものはあるのかと言われると、私は“くすり”に対する需要があると思います。人類が始まって以来、人が生き延びるための知恵としてさまざまな形でくすりは使われてきました。健康で長生きしたいということに変わりはないと思います。また、大学で学びたいという欲求も変らないと思います。そして、そこには共に学んだ仲間がいたということも。“くすり”と“薬学部”と“同窓会”、このつながりのなかで熊本大学薬学部が進化することを祈念します。

目次

変わることと変らないもの.....	1	卒後教育講座：第16回薬剤師のための医療薬科学研修会報告.....	18
特集：「さようなら50周年記念館～記念館改築のお知らせ～」.....	2	平成15年度薬学展報告.....	18
新任教官紹介.....	5	庶務報告.....	19
研究室だより.....	5	慶事.....	19
同窓生著書のご紹介.....	6	博士号取得者.....	19
支部だより.....	6	訃報.....	19
宮崎支部.....		学内だより.....	20
関東支部(東京バッテン会).....		寄付者一覧.....	20
筑豊支部.....		ご退官の先生方の最終講義のご案内.....	20
福岡支部.....		平成14年度同窓会収支決算.....	21
大阪支部.....		同窓生サークルからのお願い.....	21
卒業生だより.....	11	連絡先.....	21
熊薬、昔は今(20).....	14	熊薬研究支援の会「1-10千人会」について.....	22
第20回和漢医薬学大会報告.....	17	平成16年度研究助成の申請について.....	22

熊薬研究助成支援の会 「1 10千人会」について

熊薬研究助成会
会長 田代 昭

「1-10千人会」は平成7年に発足して以来、熊薬同窓会会員の皆様のご理解とご協力により、すでに千名を超える入会をいただいております。これにより平成8年より毎年3～5名の熊薬若手研修員である助手クラスの先生方に研究助成金の贈呈を行っております。

ご承知のように、国立大学の改革の波はいよいよ加速され、大きく変わるうとしています。このような中において、我が母校である熊薬はここ数年の研究施設の充実・拡大、大学院医学薬学研究所の設置などは正に目を見張るものがあります。このような環境の中で、熊薬が教育・研究面において素晴らしい成果を挙げ、その存在価値をさらに高めてもらうことは、私ども同窓生としても誇り高く思うものであります。我が熊薬同窓会会員一人一人の結集が大きな力となり、さらなる熊薬の充実・発展に少しなりとも寄与できるものと信じております。この意味で「1-10千人会」の果たす役割は、極めて大きな意義を持っているものと思っております。

「継続は力なり」と申します。すでに千人を超えるご入会をいただいたとはいえ、熊薬研究助成を永く継続させるためにも、現在未入会の会員の方には是非ともこの会の主旨にご賛同いただきご入会をお願い申し上げます。また、すでに入会后完納された方にも、誠に恐縮でございますが再入会についてご配慮いただきたくお願い申し上げます。



あなたの足跡を母校に残しませんか!
同窓生一人一人の団結が力です!
あなたの善意を母校に刻みましょう!
母校の発展はあなたの発展!

熊薬同窓会からのお願い

今回、1 10千人会の完納者の皆様にも、失礼ながら振込用紙を同封させて頂きました。勝手に恐縮ながら、再度の温かいお志を祈念申し上げます。

本会報の発行を含め熊薬同窓会の活動にかかる費用は、会員の皆様方の会費および寄付金よりまかなわれております。諸経費の値上がりや会員数の増大(本会報は会員全員に郵送されております)に伴い、予算が余裕のないものになりつつあります。現在、会費納入率は全会員数の約3割です。何卒、年2,000円の会費の納入による御協力をお願いいたします。また、本会報には今年度の会費用と1 10千人会用の2種類の振込用紙が同封されております。振込口座が異なりますので、お間違いのないようお願いいたします。なお、行き違いにご送金された方は何卒ご容赦下さい。

本会報は会員名簿記載の住所に郵送されております。お手もとに送られてこない方を御存知でしたら、同窓会事務局への住所変更の連絡を勧めただけると幸いです。

平成16年度研究助成の申請について

熊薬研究助成会は、熊本大学薬学部の若手研究者の研究を奨励し、薬学の向上発展と社会福祉に寄与することを目的として、平成7年に発足いたしました。本会は、この目的を達成するために、熊本大学薬学部所属もしくは出身の若手研究者の基礎研究に対する助成、海外派遣、その他国際学術交流に対する援助を行っております。

研究助成をご希望される方は、熊薬同窓会事務局に平成16年度熊薬研究助成金申請書をご請求ください。(請求先住所は、20頁の熊薬同窓会事務局連絡先をご覧ください)

- 申請受付期間
平成16年1月1日(木)～1月31日(土)
- 助成対象及び助成金額
(1)熊本大学薬学部、大学院薬学研究所及び熊薬出身の若手研究者の基礎研究に対する助成
1件 50万円
(2)熊本大学薬学部、大学院薬学研究所及び熊薬出身の若手研究者の海外派遣その他国際学術交流に対する援助
1件 10万円
- 選考結果の通知
選考委員会で選考された事項に基づき、熊薬同窓会役員会を経て3月中に申請者に通知する。